

安全な町づくり

昭和40年頃の写真です。さて場所は、どこでしょうか？



左手は高橋マカロニの工場です。右手は材木置き場らしき建物が見えます。現在は左手はピッコロシアター、右手は武蔵坊となっています。子どもたちが渡るのは産業道路です。注目すべきは信号機。この信号は、地区（地域住民）の寄付金で賄われ設置されました。

こちらの写真は、学校南側の道路です。木製電柱の看板には、「学童横断 尼崎北警察署」とあります。おまわりさんや先生が横断歩道に立って、子どもたちの安全を見守ってくれています。昭和46年2月には歩道橋が設置されました。

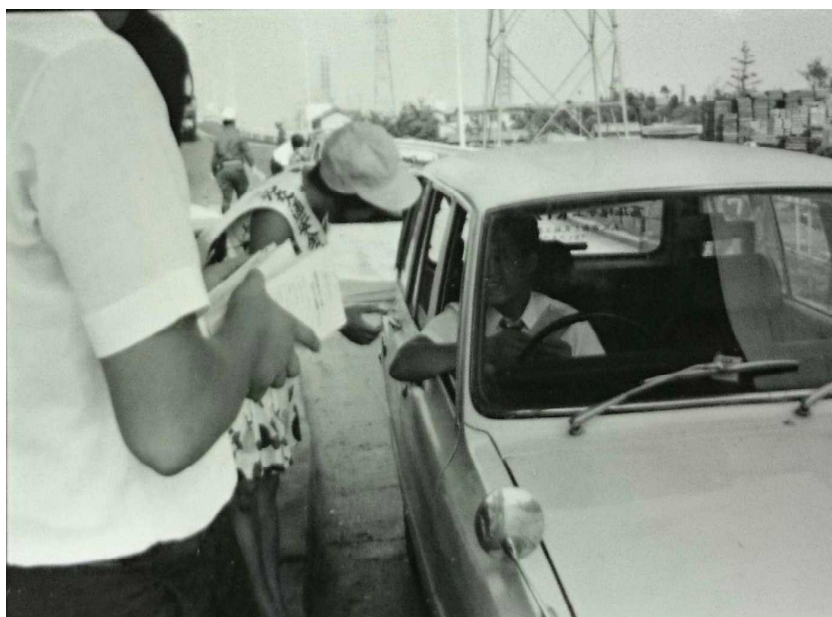


各写真は、上坂部小社会科資料室蔵



この2枚の写真（尼崎市立地域研究史料館蔵）は、交通安全感謝の会の様子を撮ったものです。今も継続して行われている行事です。

昭和56年3月17日の神戸新聞にも「長い間、本当にありがとう みどりのおばさんに感謝状」と題した記事がみられます。「みどりのおばさん」というのは、交通指導員の女性の俗称です。記事によると、若王子交差点で5年間、上坂部踏切で6年間毎日朝7時半～9時まで立番をされていた方が引退に関わって、感謝状と花束を贈られたという内容です。また、同様に上坂部交番の巡査部長にも感謝状と花束が贈られています。



さて、次の写真（尼崎市立地域研究史料館蔵）は何でしょうか？

これは、「上坂部小学校の子ども達が書いた安全運転を呼びかける手紙」を尼崎北交通安全協会婦人部の人達がドライバーに渡す光景です。笑顔が素敵ですね。



このように安全な町づくりは、学校（教師や子ども達）・地域の方々・公共機関（警察や安全協会）など、様々な人達の手によって行われています。まさに「ほほえみ つながり かがやき 笑顔あふれる上坂部」ですね。

参考資料 昭和56年3月17日 神戸新聞朝刊
上坂部小学校 新聞スクラップブック より

